

思いやりのあるやさしい心を育む  
**「もうどう犬」を知ろう！ ～アイメイト・子どもサイト～に新コンテンツ追加**  
 12月8日（火）より / 対象年齢：小学校5年生以上

公益財団法人アイメイト協会（代表理事：塩屋隆男）は、2020年7月に開設した人気のウェブサイト「もうどう犬」を知ろう！ ～アイメイト・子どもサイト～ (<https://www.eyemate.org/kids/>) をさらに楽しく充実したものにするため、12月8日（火）より新コンテンツを追加しました。

<p><b>新コンテンツ①</b>  <b>『もっと知りたい!』</b></p> <p>「もうどう犬ではなくて、ネコではダメなの？」など、気になる質問に答えるよ。もっと知りたい人のために、おすすめの本やDVDもしょうかい!</p>	<p><b>新コンテンツ②</b>  <b>『アイメイト写真ギャラリー』</b></p> <p>アイメイトは目の不自由な人の大切なパートナーですが、「もうどう犬」になる前の子犬のときは、どんなふうに暮らしているでしょう? 「もうどう犬」を引退（引たい）したあとは? 国産（こくさん）もうどう犬第1号「チャンピイ」がかつやくした昔から変わらない、アイメイトの「愛情ものがたり」を写真で見よう。</p>
---	---

--	--

※画面イメージは、使用するデバイスや環境によって異なります。

## ■『もっと知りたい』の特徴

「もうどう犬」に関する Q&A では、「信号の色はわかるの?」といった基本的な知識をはじめ、「もうどう犬ではなくて、ネコではダメなの?」といったかわいい質問にも答えてくれます。

また、こどもサイトで学んだことを試せる「もうどう犬クイズ」のコーナーもあります。友達同士、あるいは保護者の方と一緒に、楽しみながら学ぶことができます。

**しつもんコーナー**

それぞれのしつもんをクリックしてみよう。答えが見られるよ。



**Q** もうどう犬 (アイメイト) は信号の色がわかる? ● 答えをかくす

犬の目は、赤や緑を人間のように見分けることはできないんだ。だから、信号の色はわからない。横断歩道をわたるときは、アイメイト使用者が車や人の流れを聞いて、音で判断している。信号が青になったと判断したら、アイメイトに「進め」の指示を出してわたるよ。



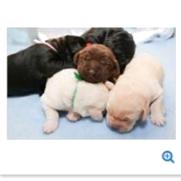
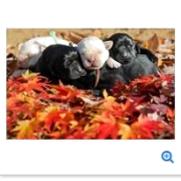
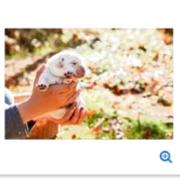
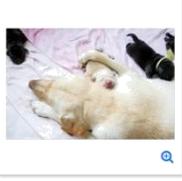
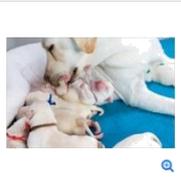
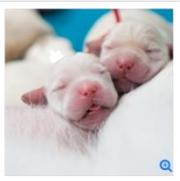
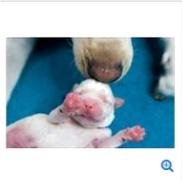
## ■『アイメイト写真ギャラリー』の特徴

「子犬時代」「成長期」「訓練」「歩行指導」「現役生活」「リタイア犬」など、普段見ることのできない貴重なアイメイト (盲導犬) の写真を、各ステージごとに見ることができます。

また、「第 1 号チャンピイ」では、60 年以上前の歴史的な写真を多数紹介。日本で最初に誕生した盲導犬「チャンピイ」と使用者の河相洌 (かわい・きよし) さん、そして、アイメイト協会をつくった塩屋賢一と河相さんの歩行指導の様子や、河相さんとチャンピイの暮らしぶりを多数紹介しています。

**子犬時代**

アイメイトになる子犬は、優秀な素質を持ったお母さん犬 (繁殖犬・はんしょくけん) から生まれます。一度に生まれる子犬は3~10頭ほど。最初は手のひらサイズで目も開いていませんが、お母さん犬のお乳をいっぱい飲んで、すくすくと育ちます。きょうだい仲良く遊ぶのが子犬たちのしごとです。



🖼️ もっと見る...

## ■アイメイト・こどもサイトとは?

「アイメイト・こどもサイト」(<https://www.eyemate.org/kids/>) は、ご家庭や教育現場で楽しみながら、アイメイト (盲導犬) に関する正しい知識を学習できるよう制作したものです。さらに、アイメイト (盲導犬) に関する内容だけでなく、アイメイト使用者や視覚障害者が感じる「不便さ」や「不自由さ」についても紹介しています。大人と一緒に深く考えることで、子どもたちに思いやりのあるやさしい心が育まれることを願っています。(対象年齢: 小学校 5 年生以上)

## ■日本の盲導犬事業の始まりは1957年夏のことでした

練馬区関町にあるアイメイト協会は、国産盲導犬第1号のチャンピイを育成した塩屋賢一が創設。1957年に、国産盲導犬第1号ペア（河相冽さんとチャンピイ）を送り出し、2017年に60周年を迎えました。

アイメイト協会は、アイメイト（盲導犬）育成や視覚障害者への歩行指導を通じて視覚障害者の自立支援を行い、社会参加を促進しています。これまで、アイメイト協会が送り出したペアは延べ1,396組（2020年11月14日現在、使用者とアイメイトのペアを1組と数えます）。

アイメイト協会出身の犬は、「盲導犬」ではなく「アイメイト」と呼んでいます。アイメイト歩行は、十分に歩行指導を受けた視覚障害者の指示を受け、人と犬とが協同で安全な移動を実現します。その主体はあくまでも人にあります。そのため、アイメイト協会では「私の愛する目の仲間」という意味を込め、「アイメイト」と呼んでいます。

（アイメイトの歴史 URL：<https://www.eyemate.org/history/>）



車道と歩道の段差を候補犬に教えている塩屋賢一



河相冽さんにチャンピイとの歩き方を指導

## ■街中でアイメイト使用者や視覚障害者に出会ったら？ウェブサイトで学べるコンテンツ

アイメイト使用者や視覚障害者のサポートの仕方が学べる、協会ウェブサイト内のコンテンツを紹介します。

### ・「アイメイト使用者に出会ったら」

街中でアイメイト使用者に出会い、何かサポートをしたい時どのようにすればいいのか、使用者への接し方や声のかけ方をまとめました。

<https://www.eyemate.org/doc/assisting/>

### ・「動画で知るアイメイト」

アイメイト（盲導犬）の歴史や、駅・街中・レストランそれぞれの場面で使用者や視覚障害者を誘導する方法を映像でご覧いただけます。

<https://www.eyemate.org/doc/education/>

